

# 学校運営協議会との連携・協働において 地域スポーツクラブの担う役割に関する研究

米津 荘彦<sup>1</sup>・中川 義英<sup>2</sup>

<sup>1</sup>学生会員 早稲田大学大学院創造理工学研究科 (〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1)

E-mail: t-yonetsu@fuji.waseda.jp

<sup>2</sup>正会員 早稲田大学理工学術院教授 (〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1)

E-mail: naka@waseda.jp

人々や地域とのつながりが希薄になっている中、今後のコミュニティのあり方としてコミュニティの連携・協働が掲げられている。本研究では、都内3区における地域スポーツクラブと学校運営協議会の関わりに着目し、両者の連携・協働が及ぼした影響を定量的に把握する。そして、その過程で地域スポーツクラブが果たした役割を明らかにする。連携・協働の10事例のうち、3つの事例について現況把握を行ったところ、「スポーツ活動に限らず、活動の内容が様々である」「学校運営協議会の設立前から地域スポーツクラブによって行われているものが大半を占める」ことが分かった。今後は、残りの研究対象（7事例）についても同様の現況分析を行い、コミュニティの連携・協働が及ぼした影響を定量的に把握する。

**Key Words :** local community, cooperation between communities, community sports club, committee for school management

## 1. はじめに

### (1) 背景・目的

#### a) 背景

交通通信機関の発達による生活圏の拡大や人口の都市集中等によって、1950年代からコミュニティにおける人々のつながりの希薄化が進んでいる<sup>1)</sup>。橋木は、このような状況を人間社会の基本であった血縁や地縁、職縁が崩壊し、無縁社会に突入したとしている<sup>2)</sup>。

また国際的に見ると、日本は家族以外の人と社交のために全く、また滅多に付き合わない人の比率がOECD諸国の中で最も高く、社会的孤立が深刻であると言われている<sup>3)</sup>。

1969年9月、国民生活審議会調査部会コミュニティ問題小委員会による調査がきっかけで、コミュニティという言葉が社会的にも行政施策としても注目されるようになった。そこでは、地域的な連帯や心の安らぎ、共同性といった心理的安定をもたらす基盤が失われたことを指摘し、その解決策としてコミュニティの必要性を述べている<sup>4)</sup>。

これを受けて、1971年から1990年にかけて自治省によって3次にわたるコミュニティ施策が打ち出された。全国の83地区がモデル・コミュニティ地区、147地区がコミュニティ推進地区、141地区がコミュニティ活動活性化地区に指定され、コミュニティ・センターなどの集会

施設を中心に、コミュニティ施設の整備が進められた。そして、それらコミュニティ施設の管理・運営や、文化・レクリエーション活動を始めとする様々な住民活動が展開された<sup>5)</sup>。

スポーツの分野においても、同時期に経済社会基本計画が策定され、地域のスポーツ活動によって人々の心の拠り所や連帯感、そしてコミュニティを作り出すコミュニティ・スポーツ政策が推進された<sup>6)</sup>。以後、1990年代の生涯スポーツ政策、2000年のスポーツ振興基本計画によって総合型地域スポーツクラブの設立が進められた。

2010年の内閣府「新しい公共」宣言では、この総合型地域スポーツクラブが新しい公共の担い手として期待されている<sup>8)</sup>。

#### b) 目的

上記のようなコミュニティの現況及び、これまでのコミュニティ施策を踏まえて、総務省や国土交通省は今後のコミュニティのあり方として、コミュニティの連携・協働を掲げている<sup>9)10)</sup>。

コミュニティの連携・協働については、コミュニティの活力を維持していく上で重要であるとの指摘があるものの<sup>11)</sup>、大半が定性的な成果報告に留まっており、その成果を定量的に示されたものは希少である。

地域スポーツクラブにおいても、地域コミュニティと関わりのある活動を標榜するクラブが見られる一方で、

クラブ内でのスポーツ活動や文化活動にとどまっているクラブも少なくない。

そこで、本研究では以下の2点を明らかにする。

- ・ 地域コミュニティ（地域で活動するコミュニティ）の連携・協働がもたらす効果を定量的に把握する
- ・ 地域コミュニティとの連携・協働の過程で地域スポーツクラブの果たした役割を明らかにする

これらから、今後地域スポーツクラブが新しい公共として、地域コミュニティの連携・協働の一翼を担うための新たな知見を得る。以上が本研究の目的である。

(2) 本研究で扱う用語の定義

a) コミュニティ

社会学で最も代表的とされるMacIverのコミュニティ論<sup>12)</sup>や、アメリカ社会におけるコミュニティの衰退を受けてOldenburgが提唱したサードプレイスの概念に倣い<sup>13)14)</sup>、「共同性や地域性がある、人々の会話や交流が生まれる場」と定義する。

b) 地域スポーツクラブ

「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」スポーツ（文化的活動を含む）を楽しむことができる社会を実現するために、地域住民が主役となって、自ら運営・管理するスポーツクラブである<sup>15)</sup>。2014年7月1日現在、全国1276の市区町村で、3259のクラブが創設されている<sup>16)</sup>。

c) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みである<sup>17)</sup>。

コミュニティ・スクールの指定を受けた学校は、保護者や地域住民などから成る学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べたりすることができる<sup>17)</sup>。

学校運営協議会では、このような活動を通じて、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させることができる。

2015年4月1日現在、44都道府県2389校（幼稚園95校、小学校1564校、中学校707校、高等学校13校、特別支援学校10校）において学校運営協議会が設置されている<sup>18)</sup>。

d) ソーシャル・キャピタル

今日的なソーシャル・キャピタル論を提示したPutnamの定義に倣い「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴」と定める<sup>19)</sup>。

ソーシャル・キャピタルが豊かな場合、人々は互いに

信用し自発的に協力する、すなわち集合行為のジレンマの最善な解決策、そして民主主義を機能させる鍵となると言われている<sup>20)</sup>。

ソーシャル・キャピタルは性質上、結合型と橋渡し型に大別される。結合型ソーシャル・キャピタルは、社会の接着剤とも言うべき強い絆、結束によって特徴づけられ、内部志向的であると考えられる。そのため、この性格が強すぎると、排他性を有する組織になる可能性がある。これに対して、橋渡し型ソーシャル・キャピタルは、つながりが弱く薄い、より横断的なつながりが特徴であり、社会の潤滑油とも言うべき役割を果たすとされている<sup>20)21)</sup>。

(3) 既往文献の整理と本研究の位置づけ

a) 既往文献の整理

本研究に関わる既往文献として、コミュニティに関する文献を表-1に、ソーシャル・キャピタルに関する文献を表-2に、地域スポーツクラブに関する既往文献を表-3にそれぞれ示す。

表-1 コミュニティに関する文献<sup>9)10)11)</sup>

| 著者    | 内容  |
|-------|---|
| 国土交通省 | 今後の都市部におけるコミュニティのあり方として、地縁的コミュニティ(自治会、町会など)をベースとしながらも、活動が活発なテーマ型コミュニティとの連携を図っていくべきとしている。その過程で、ネットワークを拡大しながら、ソーシャル・キャピタルを構築し、一定の公共性を有する新しいまちづくり活動が展開されていく必要があると述べている。                                  |
| 総務省   | 少子高齢化や自治体の厳しい財政状況、公共の守備範囲の拡大を踏まえ、地域の様々な主体が公共サービスを提供するために、地域の多様な力を結集した地域力創造を実現する仕組み(地域協働体)づくりが必要としている。   |
| 依藤    | 3つの小学校区におけるコミュニティ活動を調査し、高齢者福祉や子育て、青少年健全育成に関わる活動が多く、若い世代や女性がコミュニティ間の連携における実質的な担い手の役割を担っていることを明らかにした。また、複数のコミュニティにおける役割の兼任が連携を促す効果があるとしながらも、多様な担い手が役割分担をしてネットワーク化を図るためには、コミュニティのソーシャル・キャピタルを高めるべきとしている。 |

表-2 ソーシャル・キャピタルに関する文献<sup>22)23)</sup>

| 著者 | 内容   |
|----|--|
| 堀内 | 近畿圏3都市の事例から、ソーシャル・キャピタルに着目して、共に発展する地域づくりについて述べている。ここでは、地域づくり活動における多様なグループとの連携が必要であると指摘し、橋渡しの概念を取り入れた活動を積極的に取り入れる必要があるとしている。                  |
| 湯沢 | 地方都市における3つのまちづくり活動に着目し、ソーシャル・キャピタルと地域力(地域の問題を解決する力)との関係性を明らかにした。ここでは、ソーシャル・キャピタルの醸成が組織力の向上(組織内の連携や組織運営、業務分担が円滑になる)に寄与し、結果的に地域力として蓄積されるとしている。 |

表-3 地域スポーツクラブに関する文献<sup>24)25)26)</sup>

| 著者  | 内容  |
|-----|---|
| 宮宗  | 地域スポーツクラブの方が単一型スポーツクラブよりもソーシャル・キャピタルが醸成される他、クラブの運営やイベント等への参加者の方が非参加者よりもソーシャル・キャピタルが醸成されることを明らかにした。また、地域スポーツクラブは、結合型ソーシャル・キャピタルと橋渡し型ソーシャル・キャピタルを持つことから、ネットワークや社会参加を促進する可能性があるとして述べている。 |
| 水上ら | 1人あたりの医療点数と1件あたりの医療点数に着目し、地域スポーツクラブ会員と非会員の医療点数を比較して、スポーツ活動による医療費抑制効果を明らかにした。  |
| 堤ら  | 地域スポーツクラブがもたらした地域活性化効果として、地域コミュニティの形成、誇り・愛着の形成を挙げ、これらの活性化効果には「生涯スポーツ型」「地域関与型」のクラブづくりが必要であると述べている。そして、地域活性化効果を十分に地域に及ぼすためには、次世代まで継続するような多世代循環型クラブを目指すべきとしている。                          |

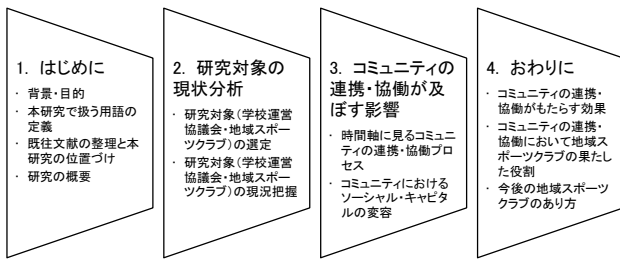


図-1 研究の流れ

b) 本研究の位置づけ

コミュニティの連携・協働の意義や必要性が論じられる中で、その効果が数的データで示されていない。また、行政の支援事業の一環で、コミュニティの連携・協働が進められているケースも存在し、継続的な連携・協働につながるかが不透明である。

そこで、地域における諸課題の解決などの共通目標が存在し、自然発生的に生まれたコミュニティの連携・協働に着目し、その効果を定量的に明示する。

また、既往文献を踏まえると、地域スポーツクラブが関与することで、住民主導のクラブ運営、橋渡し型ソーシャル・キャピタルといった特性が発揮されるのではないかと考えられる。

これらより、地域スポーツクラブが地域コミュニティとの接点を持つことの意義と、地域と密接な関わりを持つクラブ運営へ発展させていくための方策を明らかにする。

(4) 研究の概要

研究の流れを図-1に示す。本研究では、東京23区における学校運営協議会と地域スポーツクラブの連携・協働に焦点を当て、その過程における関係者のソーシャル・キャピタルの変容と、地域スポーツクラブが果たした役割を明らかにする。

学校運営協議会に着目した理由は以下3点である。

- ・ 全国の48.2%のクラブが地域の小学校や中学校を活動拠点としており<sup>16)</sup>、クラブ関係者が学校運営協議会の委員を兼ねているケースもあるから
- ・ 学校との連携（1112クラブ）や子育て支援（916クラブ）に取り組むクラブがあり<sup>16)</sup>、学校運営協議会との親和性が高いと考えたから
- ・ 今後、学校運営協議会の設立が進められていくため<sup>17)</sup>、全国における地域スポーツクラブとの連携・協働の展開が期待できるから

2. 研究対象の現状分析

(1) 研究対象の選定

東京23区における学校運営協議会のうち、協議会メン

表-4 研究の対象となる学校運営協議会（委員会）と地域スポーツクラブ<sup>18)</sup>

| 区名   | 学校名・協議会(委員会)名   | 地域スポーツクラブ名                        | 地域運営(協働)学校指定日 |
|------|-----------------|-----------------------------------|---------------|
| 新宿区  | 深橋第四小学校・学校運営協議会 | 新宿西戸山中学校区地域スポーツ文化協議会              | 2014年4月1日     |
|      | 余丁町小学校・学校運営協議会  | 新宿コミュニティスポーツクラブ                   | 2015年4月1日     |
|      | 向陽中学校・学校運営協議会   | 若松地域スポーツ文化協議会<br>新宿チャレンジスポーツ文化クラブ | 2008年4月1日     |
| 杉並区  | 向陽中学校・学校運営協議会   | 向陽スポーツ文化クラブ                       | 2005年4月1日     |
|      | 城山小学校・学校運営委員会   | しろやま倶楽部                           | 2005年4月1日     |
| 世田谷区 | 南真小学校・学校運営委員会   | ようがコミュニティクラブ                      | 2005年4月1日     |
|      | 藤澤中学校・学校運営委員会   | 藤澤近スポーツ文化クラブ                      | 2008年4月1日     |
|      | 向山中学校・学校運営委員会   | 向山スポーツクラブユニオン                     | 2010年4月1日     |
| 駒沢区  | 玉井小学校・学校運営委員会   | 若狭クラブ                             | 2011年4月1日     |
|      | 駒沢小学校・学校運営委員会   | こまざわスポーツ文化クラブ                     | 2012年4月1日     |
|      | 嵐山台小学校・学校運営委員会  | 嵐と溪のスポーツ文化クラブ                     | 2013年4月1日     |

バーに地域スポーツクラブの関係者が含まれている、もしくは学校運営協議会と連携・協働してクラブ活動がなされていると考えられるものを対象とする。

なお、新宿区では、新宿区版の地域スポーツクラブ「総合型地域スポーツ・文化クラブ」の設立を目指して、地域スポーツ・文化協議会が活動を行っていることから<sup>27)</sup>、地域スポーツ・文化協議会とそれに関係するクラブも対象に含める。

研究の対象となる学校運営協議会及び地域スポーツクラブ、地域スポーツ・文化協議会を表-4に示す。

(2) 研究対象の現況把握

a) 新宿区<sup>28)</sup>

新宿区では、学校運営協議会が置かれる学校を地域協働学校と称している。2010年の四谷中学校、2011年の四谷小学校、四谷第六小学校、花園小学校を皮切りに、地域協働学校の設置が本格化した。

新宿区における学校運営協議会は小学校が10名以内、中学校が15名以内の委員で構成されている。新宿区における地域協働学校の仕組みを図-2に示す。

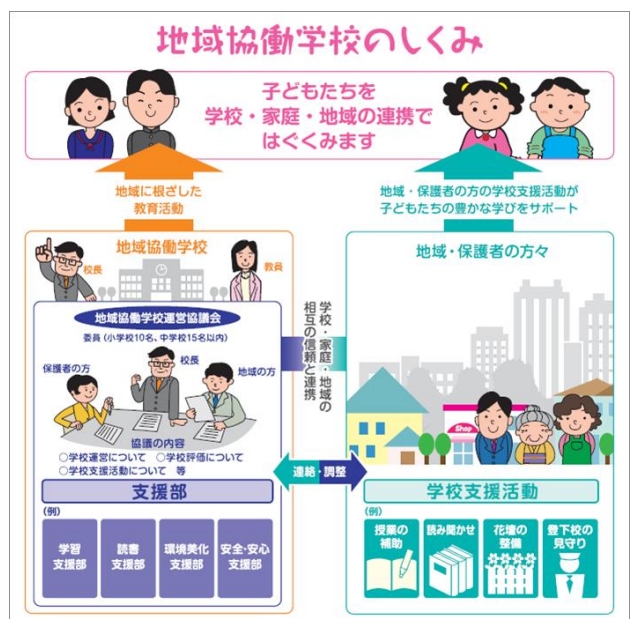


図-2 新宿区における地域協働学校の仕組み<sup>28)</sup>



表-5 淀橋第四小学校・学校運営協議会を構成する部・部門とその主な活動内容<sup>29)</sup>

| 部・部門  | 主な活動内容                     |  |
|-------|----------------------------|--|
| 支援部   | みどりのサポート                   | 構内植栽、屋上芝生・ビオトープ管理、栽培活動の指導補助、花いっぱい運動              |
|       | 読書サポート                     | 読み聞かせ、読書指導、図書室整理                                 |
|       | 学びのサポート                    | 伝統文化(お茶、音楽)、各教科、環境・福祉・キャリア、クラブ・同好会、体育・スポーツ、遠検・教検 |
|       | 安全サポート                     | 登下校の見守り、防災教育・不審者対応、スポーツ                          |
| 学校評価部 | 学校関係者評価、地域や保護者の声、ホームページの充実 |  |
| 連携部   | 放課後居場所事業、地域行事参加、学校施設開放     |  |

表-6 新宿コミュニティスポーツクラブの概要

| クラブ名 | 新宿コミュニティスポーツクラブ |
|------|-----------------|
| 設立年  | 1988年           |
| 会員数  | 不明              |
| 活動拠点 | 新宿区立淀橋第四小学校     |

■ 新宿区立淀橋第四小学校・学校運営協議会—新宿コミュニティスポーツクラブ

• 新宿区立淀橋第四小学校・学校運営協議会<sup>29)</sup>

淀橋第四小学校・学校運営協議会は、3つの部（支援部、学校評価部、連携部）で構成されている。その中でも支援部は、みどりのサポート、読書サポート、学びのサポート、安全サポートの4部門から成っている。各部・部門における主な活動内容を表-5に示す。

• 新宿コミュニティスポーツクラブ<sup>30)31)</sup>

新宿区立淀橋第四小学校を拠点として活動しているスポーツクラブである。クラブの概要を表-6に示す。

クラブ設立当初は、中学生や高校生を対象とした活動をしていたが、その後の学校開放事業や日曜日の活動に際してPTAと共に取り組んだことで、クラブの活動が拡大した。

現在ではスポーツ活動の他、文化活動や季節の行事を行う等、多岐にわたる活動を展開している。学校運営協議会と連携・協働する活動には、校庭の花の水やりや剪定、花の植え替え、安全見守り活動がある。なお、クラブ代表の河内氏が学校運営協議会の委員を務めている。

b) 杉並区<sup>28)</sup>

杉並区では、学校運営協議会が置かれる学校を地域運営学校と称している。2005年4月から桃井第四小学校、三谷小学校、杉森中学校、向陽中学校の4校が学校運営協議会を設け、地域運営学校としてスタートした。

杉並区における学校運営協議会は12名以内（校長1名、学識経験者3名以内、校長推薦4名以内、公募委員4名以内）の委員で構成され、委員の任期は2年となっている。

杉並区における地域運営学校の仕組みを図-3に示す。

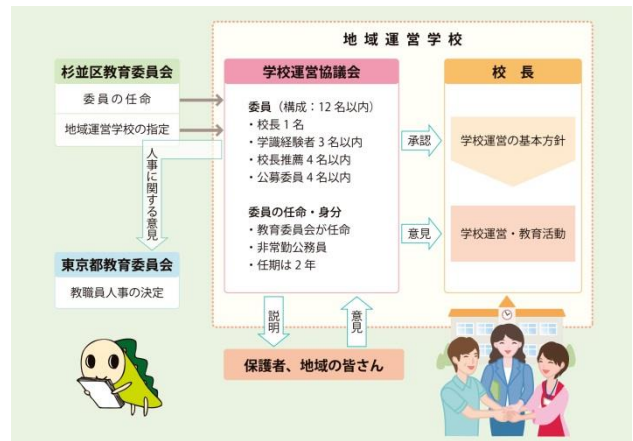


図-3 杉並区における地域運営学校の仕組み<sup>32)</sup>

表-7 向陽中学校・学校運営協議会を構成する部会とその主な活動内容<sup>29)</sup>

| 部会       | 主な活動内容   |
|----------|--|
| 教育力・評価部会 | 学力向上に向けた取り組み、保護者アンケートの実施、学校運営の点検・評価                          |
| 地域・広報部会  | 地域や保護者への対応や学校支援ボランティアの募集、広報誌「学校運営協議会だより」や「学校運営協議会からのお知らせ」の発行 |

表-8 向陽スポーツ文化クラブの概要

| クラブ名 | 向陽スポーツ文化クラブ |
|------|-------------|
| 設立年  | 1975年       |
| 会員数  | 1345人       |
| 活動拠点 | 杉並区立向陽中学校   |

■ 杉並区立向陽中学校・学校運営協議会—向陽スポーツ文化クラブ

• 杉並区立向陽中学校・学校運営協議会<sup>33)</sup>

2006年に部会が設けられた当初は、4部会（地域部会、教育部会、評価部会、広報部会）あったが、2009年に部会活動の活性化を狙った部会の統合が行われ、現在に至っている。同委員会における各部会の主な活動内容を表-7に示す。

学校運営協議会の委員は、校長、地域住民、PTA会長、元PTA会長、大学評議員、会社代表取締役会長、杉並法人会会員、学校支援本部本部長で構成されている<sup>34)</sup>。

• 向陽スポーツ文化クラブ<sup>35)</sup>

杉並区立向陽中学校を拠点として活動している地域スポーツクラブである。クラブの概要を表-8に示す。1975年に同校に赴任してきた校長が、学校の発展に向け、地域社会を育てる方針を掲げ、地域住民へのプール開放をPTAに持ちかけたことがきっかけでクラブが誕生した（安全上の問題で、昨年をもって夏季のプール開放は終了した）。

通常の活動では、向陽中学校の部活動にコーチ

を派遣したり、中学校の部活動にはない種目をクラブで扱ったりしており、部活動に入らない生徒の受け皿としても機能している<sup>36)</sup>。また、学校施設（テニスコート、万葉植物園）の管理運営も行っていることから、中学校とクラブの関わりが密接であると言える。なお、クラブ会長の瀧水氏が学校運営協議会の委員を務めている。

c) 世田谷区<sup>37)</sup>

世田谷区では、学校運営委員会が置かれる学校を地域運営学校と称している。2005年4月から城山小学校、用賀小学校、東玉川小学校、八幡中学校の4校が学校運営委員会を設け、地域運営学校としてスタートした。

世田谷区教育委員会が地域運営学校を指定する際には、段階的に指定を拡充するために以下3点を考慮している<sup>38)</sup>。

- ・ 保護者、地域、学校の関係が良好であり学校運営委員会を設置する環境が整っていること
- ・ 保護者、地域、学校とも指定に対する要望が強く、指定することで保護者、地域、学校の連携がより一層深まり開かれた学校づくりの推進が見込まれること
- ・ 区内の各地域にできうる限り均等に地域運営学校を配置すること

世田谷区では、1997年より区独自の取り組みとして、全ての区立小・中学校に学校協議会を設置し、開かれた学校づくりを進めてきた<sup>39)</sup>。この学校協議会との混同を避けるために、名称を学校運営協議会ではなく、学校運営委員会としている。世田谷区における地域運営学校の仕組みを図-4に示す。

■ 世田谷区立用賀小学校・学校運営委員会—ようがコミュニティクラブ

・ 世田谷区立用賀小学校・学校運営委員会<sup>39)</sup>

用賀小学校・運営委員会の組織図を図-5に示す。学校運営委員会が直轄する組織として、学校教育充実のための活動組織があり、6つの支援委員会によって構成されている。また、学校運営委員会を支える活動母体として、町会・やぐらの会・ようがコミュニティクラブ等がある。

支援委員会の取り組みとしては、情報教育支援委員会によるパソコン塾や、読書活動支援委員会による読み聞かせ、学校美化支援委員会による遊具のペンキ塗り等が行われている。

・ ようがコミュニティクラブ<sup>40)41)</sup>

2004年に設立された地域スポーツクラブである。クラブの概要を表-9に示す。ようがコミュニティ

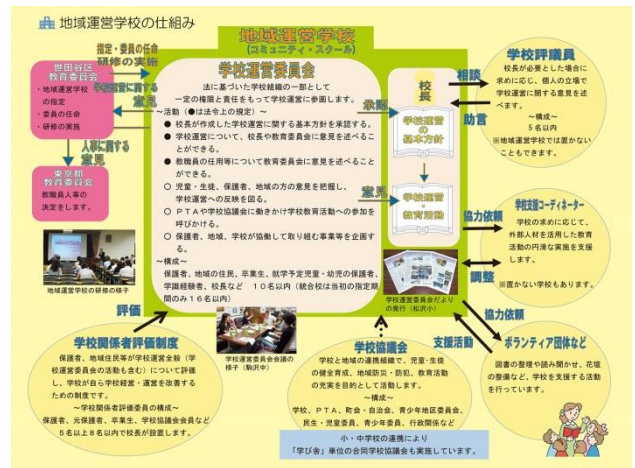


図-4 世田谷区における地域運営学校の仕組み<sup>37)</sup>

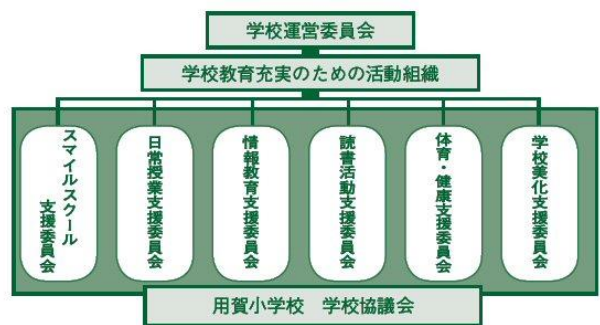


図-5 用賀小学校・学校運営委員会の組織図<sup>39)</sup>

表-9 ようがコミュニティクラブの概要

| クラブ名 | ようがコミュニティクラブ                       |
|------|------------------------------------|
| 設立年  | 2004年                              |
| 会員数  | 735人                               |
| 活動拠点 | 世田谷区立用賀中学校<br>世田谷区立用賀小学校<br>駒沢大学高校 |

ークラブの始まりは上用賀スポーツサタデーに遡る。学校週5日制の導入に合わせて土曜日の地域活動が活発化し、子どもたちの土曜日の受け皿として、2000年に上用賀スポーツサタデーが始まった。地域の様々な組織の代表者が発起人となり、スポーツ推進委員・青少年委員が中心となって実施された。

その後、2002年に上用賀コミュニティ広場へと改称され、「よい子・よい町・よい学校」を目指す校長の方針のもと、地域スポーツクラブの設立を願う地域住民の協働によって、2004年3月28日の設立総会においてようがコミュニティクラブが発足した。

同クラブは、2009年から学校運営委員会（スマイルスクール支援委員会）と協働して夏休みの体験学習を企画している他、用賀中学校においては、

生徒を対象とした救急救命講習会や熱中症講習会を実施している。なお、クラブ代表の和田氏が学校運営委員会の委員を務めている。

### 3. 現時点でのまとめ

第2章で新宿区、杉並区、世田谷区における学校運営協議会（学校運営委員会）と地域スポーツクラブ（スポーツクラブ）の連携・協働に関する現況把握を行ったが、連携・協働して行われる活動内容やその数が様々であることが分かった（それらをまとめたものを表-10に示す）。

表-10 学校運営協議会—地域スポーツクラブの連携・協働によって行われている活動

| 名称                                     | 連携・協働している活動内容    | 活動開始時期   | 実施主体      |
|--|------------------|----------|-----------|
| 新宿区立流橋第四小学校・学校運営協議会<br>新宿コミュニティスポーツクラブ | 花の水やり・植え替え・剪定    | 運営協議会設立前 | スポーツクラブ   |
|  | 学校開放事業           | 運営協議会設立前 | スポーツクラブ   |
|  | 安全見守り活動          | 運営協議会設立後 | 学校運営協議会   |
| 杉並区立向陽中学校・学校運営協議会<br>向陽スポーツ文化クラブ       | 部活動へのコーチの派遣      | 運営協議会設立前 | 地域スポーツクラブ |
|  | フェニクスや万葉集博物館の管理  | 運営協議会設立前 | 地域スポーツクラブ |
|  | プール開放            | 運営協議会設立前 | 地域スポーツクラブ |
| 世田谷区立用賀小学校・学校運営委員会<br>ようがコミュニティクラブ     | 部活動に所属しない生徒の受け入れ | 運営協議会設立前 | 地域スポーツクラブ |
|  | 夏休みの体験教室         | 運営委員会設立後 | 学校運営委員会   |

表-10より、連携・協働して行われる8つの活動の内訳は、学校運営協議会（学校運営委員会）設立前から行われている活動が6つ、学校運営協議会（学校運営委員会）設立後から行われている活動が2つである。

学校運営協議会（学校運営委員会）設立前から行われている活動については、設立前後における活動内容の変化に着目する、学校運営協議会（学校運営委員会）設立後から行われている活動については、その活動が始まったきっかけを調査することで、地域スポーツクラブの果たした役割が明らかになってくると考えられる。

今後は、残りの研究対象7件についても、同様の現況把握を行い、コミュニティの連携・協働が及ぼす影響を明らかにしていく。

### 参考文献

- 1) 内閣府、『平成 19 年版国民生活白書-つながりが築く豊かな国民生活-』：  
[http://www.caa.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/10\\_pdf/01-honpen/index.html](http://www.caa.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/10_pdf/01-honpen/index.html)（最終閲覧：2015 年 7 月 21 日）
- 2) 橋本俊詔：『無縁社会の正体：血縁・地縁・社縁はいかに崩壊したか』, PHP 研究所, 238pp, 2011.
- 3) OECD iLibrary : Society at a Glance: OECD Social Indicators - 2005 Edition [http://www.oecd-ilibrary.org/social-issues-migration-health/society-at-a-glance-2005\\_soc\\_glance-2005-en](http://www.oecd-ilibrary.org/social-issues-migration-health/society-at-a-glance-2005_soc_glance-2005-en)（最終閲覧：2015 年 7 月 21 日）
- 4) 国民生活審議会調査部会コミュニティ問題小委員会、『コミュニティ—生活の場における人間性の回復

—』：

<http://www.ipss.go.jp/publication/j/shiryoku/no.13/data/shiryoku/syakaifukushi/32.pdf>（最終閲覧：2015 年 7 月 21 日）

- 5) 横道清孝：『アップ・ツー・デートな自治関係の動きに関する資料 No.5：日本における最近のコミュニティ政策』, pp.15, 2009.
- 6) 伊藤恵造, 松村和則：コミュニティ・スポーツ論の再構成, 体育学研究, No.54, pp.77-88, 2009.
- 7) 飯田義明：地域社会におけるスポーツの実践とソーシャル・キャピタルの可能性, 社会関係資本研究論集, 第 1 号, pp.91-108, 2010.
- 8) 内閣府, 「新しい公共」宣言（平成 22 年 6 月 4 日第 8 回「新しい公共」円卓会議資料）：  
<http://www5.cao.go.jp/npc/pdf/declaration-nihongo.pdf>（最終閲覧：2015 年 7 月 21 日）
- 9) 総務省, 新しいコミュニティのあり方に関する研究会報告書：  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/kenkyu/new\\_community/18520.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/new_community/18520.html)（最終閲覧：2015 年 7 月 26 日）
- 10) 国土交通省, 平成 22 年度 都市型コミュニティのあり方とまちづくり方策研究会報告書
- 11) 依藤光代, 坂井信行：地域コミュニティにおける諸団体の活動の連携に関する一考察, 日本都市計画学会関西支部 第 9 回研究発表会（2011/07/23）
- 12) 倉沢進：『コミュニティ論』, 放送大学教育振興会, 189pp, 2002
- 13) 小林重人, 山田広明：地域のサードプレイスとしてのカフェ創出に関する研究 —ソーシャル・キャピタルからの新たなサードプレイス像の検討—, 知識共創第 3 号, 2013
- 14) 小林章夫：『コーヒーハウス：18 世紀のロンドン、都市生活史』, 講談社, 288pp, 2000
- 15) 文部科学省, 総合型地域スポーツクラブ：  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/club/](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/)（最終閲覧：2015 年 7 月 24 日）
- 16) 文部科学省, 『平成 26 年度 総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果 概要 平成 27 年 2 月』：  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/sports/detail/\\_icsFiles/fieldfile/2015/03/19/1234682\\_11.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/fieldfile/2015/03/19/1234682_11.pdf)（最終閲覧：2015 年 7 月 24 日）
- 17) 文部科学省, コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）：  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/community/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/)（最終閲覧：2015 年 7 月 25 日）
- 18) 文部科学省, コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）, コミュニティ・スクールの指定状況（平成 27 年 4 月 1 日）：  
[www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/community/shitei/detail/1358535.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/shitei/detail/1358535.htm)（最終閲覧：2015 年 7 月 25 日）
- 19) Robert D. Putnam 著, 河田潤一訳：『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』(叢書「世界認識の最前線」), NTT 出版, 318pp, 2001
- 20) 内閣府, 平成 14 年度 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて：  
<https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/2009izen-chousa/2009izen-sonota/2002social-capital>（最終閲覧：2015 年 7 月 26 日）



- 21) 日本総研, なぜ今ソーシャル・キャピタルなのか - 前編- ~その研究の変遷と今日的意義~ : <https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=13517> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 26 日)
- 22) 堀内悠 : 地域コミュニティパワーがうみだす “共助” の一考察, 平成 24 年度近畿地方整備局研究発表会, 2012
- 23) 湯沢昭 : 地域力向上のためのソーシャル・キャピタルの役割に関する一考察, 日本建築学会計画系論文集, Vol.76, No.666, pp.1423-1432, 2011
- 24) 宮宗大輔 : 総合型地域スポーツクラブにおけるソーシャル・キャピタルに関する研究, 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士論文, 2008
- 25) 水上博司, 大平利久, 伊藤俊樹, 大澤裕美 : 地域スポーツクラブ会員の運動頻度の増加からみた医療経済効果 (2), 日本大学文理学部人文科学研究科研究紀要, No.74, pp.61-80, 2011
- 26) 堤理仁, 赤松宏和, 中川義英 : 地域スポーツの地域活性化効果に関する研究 - 総合型地域スポーツクラブを対象として -, 日本都市計画学会都市計画論文集, Vo.37, No.48, pp.283-28, 2002
- 27) 新宿区, 総合型地域スポーツ・文化クラブ : [http://www.city.shinjuku.lg.jp/kanko/260500community\\_00018.html](http://www.city.shinjuku.lg.jp/kanko/260500community_00018.html) (最終閲覧 : 2015 年 7 月 29 日)
- 28) 新宿区, 地域協働学校 : [http://www.city.shinjuku.lg.jp/kodomo/kyoshien01\\_001045.html](http://www.city.shinjuku.lg.jp/kodomo/kyoshien01_001045.html) (最終閲覧 : 2015 年 7 月 27 日)
- 29) 新宿区立淀橋第四小学校, 地域協働学校 : <http://www.shinjuku.ed.jp/es-yodobashi4/gakkoudayori1.html> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 28 日)
- 30) 新宿コミュニティスポーツクラブ : <http://www.econess.net/komisupo/index.html> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 28 日)
- 31) 新宿コミュニティスポーツクラブ : <http://blog.goo.ne.jp/econess02> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 28 日)
- 32) 杉並区教育委員会, 地域運営学校 (コミュニティ・スクール) : <http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/education/chiki.html> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 27 日)
- 33) 屋敷和佳 : 学校運営協議会活動の模索と成果・課題 - 杉並区立向陽中学校における 6 年間 -, 日本教育経営学会紀要第 53 号, pp.124-133, 2011
- 34) 杉並区教育委員会, 地域運営学校の成果検証調査結果及び平成 26 年度すぎなみ教育シンポジウムの開催報告, 第三部 学校運営協議会の紹介 : [http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/education/pdf/20141220\\_part3.pdf](http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/education/pdf/20141220_part3.pdf) (最終閲覧 : 2015 年 7 月 29 日)
- 35) 向陽スポーツ文化クラブ : <http://www.ksec.jp/> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 27 日)
- 36) 大竹弘和, 上田幸夫 : 地域スポーツとの「融合」を通じた学校運動部活動の再構成, 日本体育大学紀要, Vo.30, No.2, pp.269-277, 2001
- 37) 世田谷区, 「地域運営学校」の取り組みの紹介 : <http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/103/133/524/d00039108.html> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 27 日)
- 38) 文部科学省, コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度), コミュニティ・スクール事例集 : [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/community/school/detail/1311295.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/school/detail/1311295.htm) (最終閲覧 : 2015 年 7 月 28 日)
- 39) 世田谷区立用賀小学校, 地域運営学校, 学校運営委員会 : <http://school.setagaya.ed.jp/swas/index.php?id=yoga&frame=gakkouneiinkai> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 28 日)
- 40) ようがコミュニティクラブ : <http://ycc2004spocul.jimdo.com/> (最終閲覧 : 2015 年 7 月 28 日)
- 41) 文部科学省, コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度), 平成 19 年度コミュニティ・スクール推進フォーラムにおける実践発表資料 (東京都世田谷区立用賀小学校) : [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/community/suishin/detail/1313015.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/suishin/detail/1313015.htm) (最終閲覧 : 2015 年 7 月 28 日)

(2015. 7. 30 受付)

## THE STUDY ON ROLE PLAYED BY COMMUNITY SPORTS CLUB IN COOPERATION WITH COMMITTEE FOR SCHOOL MANAGEMENT

Takahiko YONETSU, Yoshihide NAKAGAWA

Cooperation between communities is raised as the future of communities while connection with people and local society has become less and less. In this research, it focusses on the connection between community sports club and committee for school management and perceive the effects of cooperation between them quantitatively. Subsequently, it shows the role played by community sports club in the process. Through figuring out present state on three cases out of ten cases on the cooperation, two points are made clear. First point is that contents of the cooperation are various. Second point is that cooperation by community sports club before the founding of committee for school management consist mostly of all cooperations. On rest of the research object (seven cases), it will figure out present state similarly and perceive the effects of cooperation between them quantitatively.